

県立徳山北高等学校の概要

本校の所在地である周南市須々万は市街地から北に十数キロ離れた中山間地域である。現在は各学年2クラス（生徒数110人）の規模で、設置学科は普通科のみであるが、過去に農業科が設置されていた歴史がある。校舎の裏手にはかつて農場であった土地が広がっており、その一部は総合的な学習の時間での野菜作りの体験活動などに役立っている。

生徒の進路状況は、近年就職希望者がやや増えて全体の5割程度となり、その多くが周南地域の事業所に就職している。また、進学希望者のほぼ半数が大学・短大へ、半数が専修・各種学校へ進学している。

キャリア教育の効果的な指導内容・指導方法の充実・改善

【取組内容】

1 インターンシップ

本校は山口県教育委員会の「インターンシップ推進事業」に基づき、平成15年度から地元（周南市須々万）の事業所でのインターンシップに取り組んできたところである。

平成19年度に本調査研究事業の推進校に指定され、「キャリア教育の推進」を学校の重点目標として掲げ、全校をあげて取り組むこととなった。以後、本校におけるキャリア教育の在り方を考える上でインターンシップはその柱となる活動の一つであるととらえ、改善に取り組んだ。

（1）対象学年と実施期間

平成15年度は夏季休業中に1日、希望する生徒だけが参加するという形で実施したが、翌16年度からは2年生全員の参加とした。16年度、17年度の両年は、11月に、1週間の中で事業所ごとに実施日を設定し、1日または2日間の日程で実施した。また、18年度、19年度には11月に一斉に2日間の日程で実施した。

平成20年度においては、19年度までの実施状況や、近年多くの中学校で職場体験学

習が実施されている状況を踏まえ、継続性・発展性を考慮して、1年生を対象学年に加えた。あわせて、十分な体験活動のために実施期間の延長を検討したが、前年の事業所へのアンケート結果等から多くの事業所の賛同を得ることは難しいと判断し、前年同様11月中旬の2日間とした。

また、本校では市街地からバスで通学してくる生徒が相当数あるなどの事情で、平成20年度までインターンシップ当日は全員が一旦平常通りに登校し、学校から事業所ごとのグループでまとまって出勤していた。しかし、実施後のアンケートで、いくつかの事業所から出勤時刻が遅いために仕事の重要な部分を体験できない等の指摘があったことを踏まえて、交通事情で不可能な生徒を除き、原則として各事業所指定の時刻に自宅から直接出勤させることとした。

（2）実施事業所

本校の位置する周南市須々万は、市街地から離れ、一つのまとまった生活圏を形成しているため、大規模ではないものの多様な事業所を有している。

平成19年度までは市役所の支所や保育園等の公的機関のほか、スーパーやガソリンスタンド等の小売店、美容室、JA、森林組合など15前後の事業所で実施していたが、20年度に対象学年を拡大したことに伴い、新たに小学校や福祉施設、小売店等に依頼し、23事業所で実施した。



インターンシップ

（3）事前・事後の指導

平成19年度の生徒の事後アンケート結果（後述）を踏まえて、あいさつやコミュニケーション等に重点を置いた事前指導の充実を図った。

1回目の事前指導では、外部講師によるマナー指導とともに、翌週の事前訪問時のあいさつや指示聴取の要領等について指導した。2回目の事前指導では職業安定所の職員と本校のキャリア・カウンセラー（就職指導専門員の兼務）による参加の心構え等についての指導、及び事業所別の打合せ等を行った。2週間前には受入事業所へのあいさつと打合せのための事前訪問を実施した。事後指導では、アンケート記入による振り返りや礼状作成を行った。あわせて、取組状況に問題が見られた場合には、後日個別の指導を行った。

（4）生徒の取組状況

年度によっては一部の事業所から生徒の取組状況に課題が見られるという指摘を受けたこともあるが、全体としては概ね好評であり、生徒の方も8割以上がまた参加したいという感想をもっている。

2 キャリアガイダンス的諸行事

自分に適した進路を探るために必要な経験や知識の少ない生徒が、自己の生き方について考えを深め、進路意識を高めることができるよう、従来から実施している行事と活動の関連性や系統性に留意しながらキャリアガイダンス的諸行事の充実を図った。

（1）企業・上級学校見学

1, 2年生を対象に12月中下旬に実施。
①大学・短大, ②専修・各種学校, ③企業の3コースを設定し、生徒はそれぞれ希望のコースを選択する。1, 2年生の間でできるだけ多様なものを実際に見て視野を広げ、3年生の進路選択の段階につなげることをねらいとする。また、自らオープン・キャンパス等に参加するなど、生徒が進路検討のための行動を起こす契機になることも期待している。3年間の見学先は次表の

通りである。

コース	平成19年度	平成20年度	平成21年度
① 大学・短大	公立大学（国際文化, 社会福祉, 看護）	私立大学（社会福祉, 看護）及び併設短期大学部（栄養, 保育）	私立大学（教育）及び併設短期大学（芸術, 保育, 福祉）
	私立大学（教育）及び併設短期大学（芸術, 保育, 福祉）	私立大学（基礎工学）	私立大学（経済, 社会福祉）
② 専修学校	私立専修学校（2校併設, 情報及び医療）	私立専修学校（情報）	私立専修学校（2校併設, 情報及び医療）
	私立専修学校（福祉）	私立専修学校（医療, 福祉）	私立専修学校（2校併設, ビジネス, 芸術及び美容）
③ 企業等	自動車製造工場	被服縫製工場	石油精製工場
	住宅製造工場	タイヤ製造工場	職業訓練施設

（2）ビジネスマナー教室

全学年生徒を対象に5月に実施。外部講師を招き、作法だけでなく実社会におけるマナーの重要性を学ぶ。講師については、日本秘書クラブ山口支部や教育情報関連企業に依頼した。



ビジネスマナー教室

なお、平成19年度においては5月と6月の2回にわたり同じ講師から指導を受けたが、20年度からは全学年一斉の実施は5月の1回のみとした。2回目に代わるものとして、1, 2年生についてはインターンシッ

ブの事前指導の中に外部講師によるマナー指導を取り入れ、また、3年生については、夏季休業中に行っている進路希望別の面接指導に外部講師を招いて、いずれも目的意識をもって受講できるように工夫した。

(3) キャリア教育講演会

山口県教育委員会の「キャリア・インストラクター派遣事業」を活用し、近隣地域から招へいする外部講師の講演を実施した。将来の志や社会人としての在り方生き方を考えることをねらいとする。

講師は市内の元小学校長や市内のダンシングクラブ主宰者、ファッションモデルの経歴をもつ同窓生等に依頼した。講師自身の浮き沈みのある人生経験を通して、あきらめることなく困難に立ち向かう生き方の重みや夢を持ち続けることの大切さ、将来への準備を怠らないことや自信をもつことの大切さ等が語られた。



(4) 「ようこそ先輩」講話

近隣地域で就労している看護師、技能工、介護施設職員、ホテルマン等若手の卒業生による講話を行った。生徒と年齢の近い講師の話聞くことで、就労についてより具体的な意識をもつことをねらいとする。

同じ学舎で高校生活を送った先輩であるという親近感もあり、生徒は講話の内容に共感するところが多いようである。

(5) 進路ガイダンス

大学や専門学校等から講師を招き、職業分野別の講座を10～20講座設定した。講座により実演・実習を伴う場合もある。様々な職業や、その職業に就くための道筋について理解することをねらいとする。

(6) 職業人講話

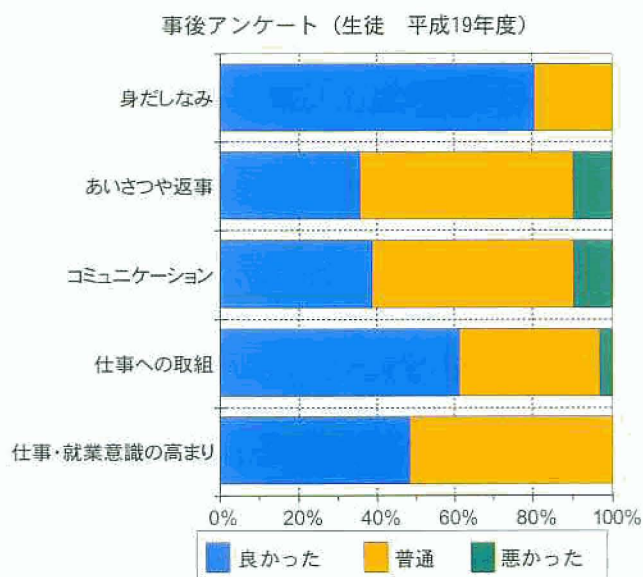
新幹線の車輛製造、パティシエ、美容師など各分野で高い評価を得ている講師を招いて8分野の座談会形式の講座を開設した。

この講座は、職業そのものの理解というよりも、職業人としての在り方生き方に学ぶことを主なねらいとしている。

【成果】

1. インターンシップ

次のグラフはインターンシップ実施後の生徒アンケート（平成19年度）の結果である。

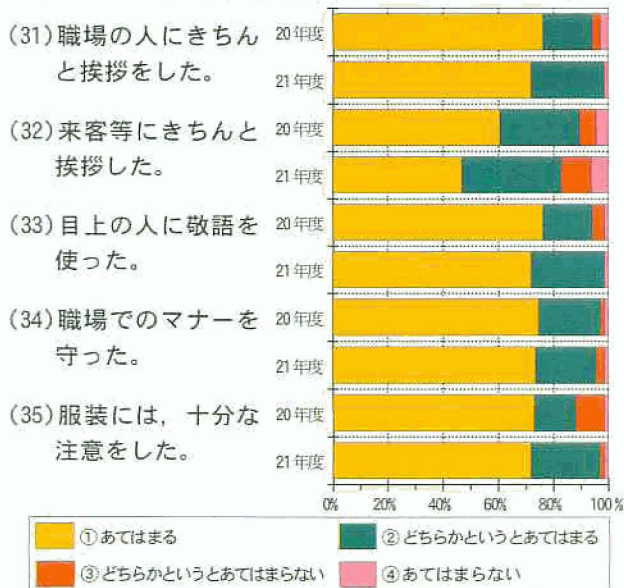


これを見ると、「あいさつや返事」「コミュニケーション」の項目で自己評価がやや低くなっており、これらの点に十分自信をもつことができていない様子うかがわれた。

そこで、前述のように平成20年度以降はこれらの点を中心に事前指導の強化を図った。

後掲の別表は20年度から項目を増やしたアンケートの結果である。このうち項目(31)~(35)のエチケットやマナーに関する質問に対する回答（1，2年生の合計）についてみると、次のグラフのように肯定的評価（①あてはまる，②どちらかというにあてはまる）の割合がかなり高くなっており，指導の成果があったものと考えている。

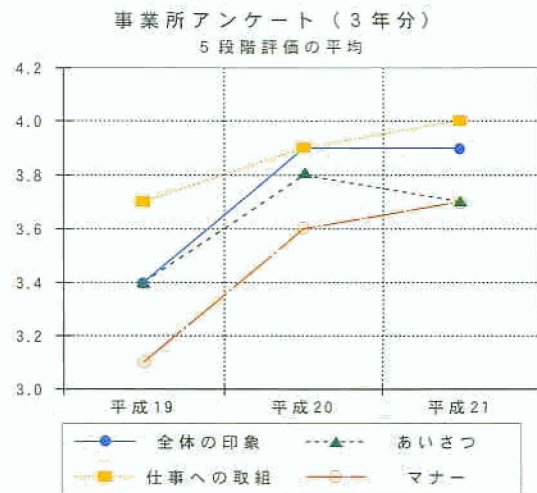
エチケットやマナーに関する項目（1年生、2年生の合計）



また，別表の質問項目全体について平成20年度と21年度を比較すると，1，2年生の合計の数値（各年度の右端の欄）の単純比較においては35項目中27項目で21年度の方が高くなっている。あわせて，同一集団である20年度の1年生と21年度の2年生の経年比較においても35項目中27項目で21年度の方が高くなっており，インターンシップへの取組全体として生徒の意識が高まっていると感じられる。

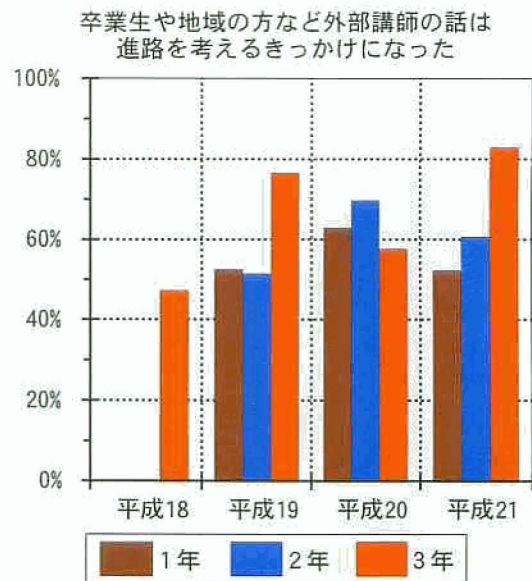
なお，次のグラフは最近3年間の事業所のアンケート結果である。個別の生徒ではなく，その年の参加生徒全体の印象について5段階の評価を受けたものの平均を示している。

事業所数やアンケート回答者は年度によって違いがあるので単純に比較しにくい面もあるが，評価は概ね上昇傾向にあり，生徒の意識の高まりが実際の取組にも反映していると思われることができる。



2 キャリアガイダンス的諸行事

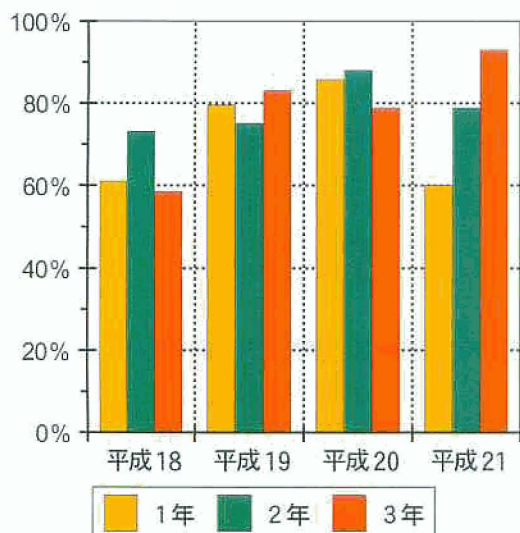
次のグラフは毎年実施している学校改善のためのアンケート調査のうち，キャリアガイダンス的諸行事に関わる項目について，生徒の肯定的な回答の割合を示したものである。3年生については，インターンシップ等その年度には参加しない行事もあるが，過去の年度で経験した印象も含めて回答していると思われる。



各学年集団の特質の違いなどもあり，単純に比較しにくいところもあるが，大まかには評価は上昇傾向にあると見ている。特に，本校が本調査研究の推進校であった3年間はちょうど本校への在籍期間と重なる平成19年度入学生の回答の経年変化にはその傾向がかなり顕著であり，学校が提供する様々な体験の

場や進路について考える機会を、生徒が自分に役立つものとして前向きにとらえるようになっていくことがうかがわれる。

インターンシップ、企業・上級学校見学などの体験学習は進路を考える上で参考になる



【課題及び今後の取組】

1 主体性を引き出す指導の工夫

インターンシップをはじめキャリアガイダンス的行事や体験活動を通じて、生徒がそれらに取り組む意識は概して向上していると思われるが、より主体的に進路を探求したり、目標に到達するために具体的な努力をするという点については、まだ十分とはいえない。



インターンシップ

その理由として、インターンシップをはじめとする体験活動や行事等が必ずしも生徒のニーズに応えるものになっていないことがあげられる。例えば、インターンシップについては、2日間という限られた日程でしかも学校周辺の限られた事業所から選ばなければならないため、現状の体験はやや中途半端に終わっていると考えられる。また、キャリア教

育講演会やようこそ先輩講話などのキャリアガイダンス的行事についても講師の話を一方的に聞くだけに終わってしまい、受け身になりがちであることが考えられる。

より主体的に進路を探求したり、自己の将来の目標に向けて必要な努力をするように生徒の意識を引き上げるためには、インターンシップにおいては、選定できる事業所や実習期間等の工夫、キャリアガイダンス的行事については、生徒の聞きたいこと学びたいことに応えられる内容にすることや事前の指導を工夫することなどが必要である。

2 各取組に関連性をもたせる工夫

インターンシップをはじめとする諸行事・活動は、それぞれ単発のものに終わるのではなく、関連性をもたせることにより、より系統的・発展的・持続的に効果を発揮させることができる。本校としても、これまでマナー指導をインターンシップにつなげるなどの改善工夫はしてきているものの、まだすべての取組が系統的に機能しているとはいえない。それぞれの取組で学んだことが別の取組や場面でしっかりと生かせるよう、各取組に関連性をもたせる工夫をしたい。

現在、1、2年生の総合的な学習の時間の半分程度を「将来設計分野」にあてて、自己理解や職業調べ等の活動を行っているが、この内容の系統性をさらに整え、前後の時期にある行事・活動と関連性をもたせていくなどの工夫も必要だと考える。

キャリア・カウンセラーの活用の在り方

【概要】

1 募集方法及び求める人材像

県配置の就職指導専門員による兼務。基本的には民間企業等で人事、労務等の業務に携わった経験があり、幅広い業種・職種について見識のある人物が望ましいと考えている。職業安定所を通じて公募する。

2 校務分掌上の位置付け及び配置場所

進路指導主任の下で進路指導課及び各学年と連携して活動する。進路指導室内に座席を

設けるとともに、平成21年度は職員室内にも座席を設けてクラス担任等との連携強化を図っている。

3 活用回数及び活用方法

就職指導の業務と合わせて週3日程度の活動を基本とし、昼休み及び放課後に生徒の個別面談を実施する。

【活用状況】

1 生徒の相談状況

1、2年生は全員が少なくとも年間1回はカウンセリングを受けることを原則とする。3年生については、平成19年度は就職希望者を中心に実施したが、平成20年度からは全員が1回はカウンセリングを受け、その後は必要に応じて来談することとした。

カウンセリングの時期は、3年生の就職試験に一区切りがつく10月までは3年生を中心とし、11月から2年生、1年生を順次実施している。

全員対象のカウンセリングは時間割を組んで実施しており、1人当たりの面談時間は20分程度である。バス通学の生徒については下校バスの乗車時刻の都合があるため、昼休みの時間を優先的に割り振るようにしている。

年度ごとの来談数は次表の通りである。

(平成21年度は見込数)

年度\学年	1年	2年	3年
平成19年度	39	43	86
平成20年度	35	36	92
平成21年度	41	31	88

2回目以降の来談は、カウンセラーやクラス担任の側で気にかかる場所があって勧める場合と自発的な場合とがあるが、いずれも1、2年生ではごくわずかである。

なお、進学希望がはっきりしている生徒については進路指導課等で指導を引き継ぐようにしている。

2 教員の活用状況

カウンセラーとクラス担任等との間で情報交換を行い、カウンセリングで得られた情報を共有するようにしている。カウンセラーが

とらえた生徒の特質や考え方はクラス担任等の日常的な生徒理解とは視点の異なるところもあり、その後の指導に有益である。現在のところは、必要に応じ不定期に行っている。

3 その他

将来の進路をテーマとするホームルーム活動や総合的な学習の時間において、カウンセラーが学年単位での講話を年間に数回担当している。また、前述のようにインターンシップの事前指導の一部を担当している。

平成21年度においては、就職環境の悪化が予想される中、5月に本校で保護者を対象とする進路ガイダンスを実施し、その内容の一部にカウンセラーの講話を設定した。

【成果】

カウンセラーの報告によれば、キャリア・カウンセリングの場で、カウンセラーの問いかけに対して生徒からはなかなか答えが返ってこなかったり、一言答えて後が続かないという場合が多いようである。



キャリア・カウンセリング

このような状況から推察されることは、それまであまり言葉を交わしたことがないカウンセラーとの面談の場で、カウンセラーからの問いかけを受け、それまであまり突き詰めて考えていなかった自分の将来の進路について自分の心の中を見つめ、自分の頭の中にあることを整理して言葉で表現するということが、本校の多くの生徒にとってはかなりの負荷を感じる作業になっているということである。そして、負荷を

感じながら何とかそれに対処しようとするということ自体が大事な意味のある体験であるといえる。

あわせて、それまで進路について漠然としか考えていなかったことがある程度整理されるとともに、カウンセラーから助言を受けることで、生徒自身がその後に取り組むべき課題を見いだすことにもつながっている。

また、カウンセラーは面談を通じて生徒の状況を掌握しているため、保護者対象ガイダンスでの講話においても、保護者に対する助言の内容が適切なものとなっている。

【課題及び今後の取組】

1 早期のキャリア・カウンセリング

進路についてなかなか早い時期から突き詰めて考えることがないという生徒の実状からすると、キャリア・カウンセリングをなるべく早期（低学年）から始めることが望ましい。しかし、カウンセラーが就職指導専門員との兼務であるため、前述のように年度の前半は3年生の指導に時間を割かざるを得ないことから、低学年の面談は年度の後半となり、面談の回数も1回で終わる生徒が多くなりがちである。今後、カウンセラーによる面談を軸としながらも、進路指導課やクラス担任等による面談を適切な時期に組織的に行き、より多角的なキャリア・カウンセリングの組み立てを工夫する必要がある。

2 キャリア・カウンセリングスキルの向上

多角的なキャリア・カウンセリングの組み立てのためにもキャリア・カウンセリングの方法等について教員の研修を行うことが望ましい。その際には、カウンセラーを講師として、特に本校の生徒にとって有効なキャリア・カウンセリングの在り方をともに考えていくことも必要であると思われる。

3 保護者へのキャリア・カウンセリング

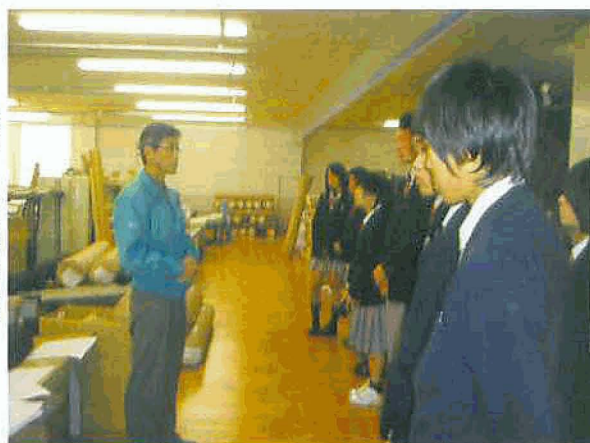
生徒の進路決定に当たっては保護者の果たす役割も大きいことから、平成21年度には保護者対象の進路ガイダンスを実施した。今後は保護者への、あるいは保護者を交えてのキャリア・カウンセリングを必要に応じて実施したい。

まとめと今後に向けた取組

本調査研究事業推進校としての本校の3年間の取組は、学校の教育目標にキャリア教育を明確に位置付けるとともに、それ以前から行っていたことをできるだけ生かしつつ、いくつかの新しい行事・活動を加えて、ともかく本校で可能なことを試行し、充実・改善していこうという考え方で始まった。そのため、途中でも述べたように、未だ十分系統的に組織されているとはいえないところもあるのが実状である。

したがって、今後、これまで取り組んできた行事・活動のうち真に本校の生徒にとって有意義であり、いろいろな意味で持続可能なものは何かを検討した上で、さらなる改善を図っていく必要がある。

また、その際には本校キャリア教育全体の系統性を高めるため、各行事の前後の総合的な学習の時間の意味に特に着目し、様々な行事・活動の点と点を線で結ぶ働きとして一層生かしていくことが大事ではないかと考えている。さらに、生徒個々を対象とする活動であるキャリア・カウンセリングを軸に、それぞれの生徒のキャリア発達を個別に支援できる仕組みを工夫するとともに、各家庭との連携をより緊密にしておくことも重要である。



企業・上級学校見学

社会性の発達途上にある生徒は、体験活動の中で社会との衝突や摩擦を起こす場合もあるが、送り出す学校が努力・工夫を重ねれば、その分だけ生徒の成長を促すことができると信じ、今後とも地域・社会の協力を仰ぎつつキャリア教育の推進に努めたい。

（別表）インターンシップ事後アンケート結果（生徒対象，平成20，21年度）

アンケート項目	平成20年度			平成21年度		
	1年	2年	合計	1年	2年	合計
※ 問 (1)～(5)についてどう感じていますか。それぞれについて、次の①～④のうちで一番近いものを選んでください。 ① よい ② まあまあよい ③ あまりよくない ④ よくない ※ 数字は回答①と②の合計の割合を示す。						
(1) 体験内容についてしっかり取り組めたか	97.1%	100.0%	98.5%	97.1%	100.0%	98.4%
(2) 実習先について	88.2%	90.9%	89.6%	100.0%	93.1%	96.0%
(3) 実施時期について	79.4%	87.9%	83.6%	94.3%	89.7%	92.2%
(4) 実施期間について	70.6%	72.7%	71.6%	74.3%	62.1%	68.8%
(5) 体験時間について	73.5%	90.9%	82.1%	88.6%	86.2%	87.5%
※ 問 今回のインターンシップを体験して学んだことは何か。(6)～(13)のうちで自分にあてはまるものを選んでください。 ※ 数字は「あてはまる」という回答の割合を示す。						
(6) 働くことの厳しさ	67.6%	60.6%	64.2%	71.3%	62.1%	68.8%
(7) 人間関係の重要性	58.8%	63.6%	61.2%	68.6%	79.3%	73.4%
(8) 時間を守ることの大切さ	47.1%	48.5%	47.8%	62.9%	69.0%	65.6%
(9) 挨拶・言葉遣いの大切さ	61.8%	84.8%	73.1%	77.1%	86.2%	81.3%
(10) 学校と社会の違い	61.7%	72.7%	68.7%	88.6%	69.0%	79.7%
(11) 働くことの楽しさ	55.9%	72.7%	64.2%	60.0%	62.1%	60.9%
(12) 仕事に対する勉強の重要性	26.5%	39.4%	32.8%	52.9%	51.7%	52.4%
(13) 体力の重要性	41.2%	57.6%	49.3%	65.7%	55.2%	60.9%
※ 問 (14)～(35)についてどう感じていますか。それぞれの項目が自分にあてはまるかどうか、次の①～④のうちで一番近いものを選んでください。 ① あてはまる ② どちらかというにあてはまる ③ どちらかというにあてはまらない ④ あてはまらない ※ 数字は回答①と②の合計の割合を示す。						
(14) その仕事の全体を知ることができた。	70.6%	78.8%	74.6%	77.1%	82.8%	79.7%
(15) その職場の人がどんな環境で働いているかを知ることができた。	94.1%	97.0%	95.5%	100.0%	89.7%	95.3%
(16) 職場での作業内容がどのようなものであるかを理解することができた。	94.1%	81.8%	89.6%	91.4%	96.6%	93.8%
(17) 将来の職業選択の参考にすることができた。	70.6%	66.7%	68.7%	88.6%	86.2%	87.5%
(18) 働くことの厳しさを理解することができた。	76.5%	84.8%	80.6%	94.3%	86.2%	90.6%
(19) その仕事に対する興味や関心が高まった。	79.4%	72.7%	76.1%	85.7%	82.8%	84.4%
(20) 将来の進路を考える上での参考になった。	82.4%	72.7%	77.6%	85.7%	86.2%	85.9%
(21) 働くことの意義（経済的に、社会的に、個人的に）を考えることができた。	82.4%	69.7%	76.1%	82.9%	86.2%	84.4%
(22) 働く人としての必要な資質について理解することができた。	76.5%	75.8%	76.1%	85.7%	86.2%	85.9%
(23) その仕事に必要な技術や技能を理解することができた。	85.3%	87.9%	86.6%	94.3%	86.2%	90.6%
(24) 今後も職業選択に役立つようなインターンシップの機会があれば参加したい。	88.2%	84.8%	86.6%	88.6%	82.8%	85.9%
(25) 積極的に職場の様子や内容を理解しようとつとめた。	82.4%	90.9%	86.6%	94.3%	89.7%	92.2%
(26) 自分の目的を持ってインターンシップに参加した。	73.5%	63.6%	68.7%	82.9%	72.4%	78.1%
(27) 疑問点があれば積極的に質問をした。	79.4%	60.6%	70.1%	71.3%	69.0%	71.9%
(28) 仕事の迷惑にならないように努め、私語もしなかった。	82.4%	72.7%	77.6%	91.4%	86.2%	89.1%
(29) 担当者の指示に従って安全に努め、勝手な行動をとらなかった。	94.1%	97.0%	95.5%	97.1%	93.1%	95.3%
(30) 実習に関係ない物品、機械には手を触れなかった。	85.3%	81.8%	83.6%	100.0%	100.0%	100.0%
(31) 職場の人にきちんと挨拶をした。	91.2%	97.0%	94.0%	97.1%	100.0%	98.4%
(32) 来客等にきちんと挨拶した。	82.4%	93.9%	88.1%	77.1%	89.7%	82.8%
(33) 目上の人に敬語を使った。	91.2%	97.0%	94.0%	97.1%	100.0%	98.4%
(34) 職場でのマナーを守った。	94.1%	100.0%	97.0%	97.1%	93.1%	95.3%
(35) 服装には、十分な注意をした。	79.4%	97.0%	88.1%	94.3%	100.0%	96.9%

山口県立徳山北高等学校 キャリア教育全体計画

指定校研究主題
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の在り方に関する効果的な指導内容・指導方法の充実・改善 ・キャリア教育の専門的知識を有する外部人材の活用の在り方

重点目標
<p>人としての在り方生き方の体得を目指したキャリア教育の推進をとおして、学ぶ力と自立する力を育成する。</p> <p>(1) 基礎学力の定着と向上のために、能力や適性に応じた教育を推進する。</p> <p>(2) 高い勤労観・職業観の涵養と進路目標の達成のために、キャリア教育を推進する。</p> <p>(3) 自立できる社会人を育てるために、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>(4) 健全な心身を育むために、安心で安全な教育環境の整備を図る。</p> <p>(5) 社会に貢献する精神を育成するために、地域との連携を推進する。</p>



生徒に身につけさせたい力
<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係形成能力 自他の理解能力 コミュニケーション能力 ○情報活用能力 情報収集・探索能力 職業理解能力 ○将来設計能力 役割把握・認識能力 計画実行能力 ○意思決定能力 選択能力 問題解決能力



各学年の目標		
1年	2年	3年
高校生活への適応と自己理解の促進・進路意識の高揚	高校生活の充実と職場体験・学校訪問等による進路の吟味	進路決定と将来の生活設計の立案



各教科・領域等における指導内容		
各教科	総合的な学習の時間	特別活動
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが自己の目標に向かって意欲を持って学ぶ態度の育成 ・基礎的、基本的な学習内容の確実な定着 ・一人ひとりに応じたきめ細かな指導と評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校との緊密な連携による総合的な学習の時間の展開 ・地域との関わりの中で、現代社会のさまざまな課題に向き合い、その課題をよりよく解決する資質や能力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主性・協調性・責任感を育む生徒会活動とホームルーム活動の展開 ・生徒の自主性・創造性を生かした学校行事への取組と活動内容の充実 ・奉仕の心を持ち、環境美化に努める生徒の育成

校内推進体制
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を学校全体で組織的、計画的に推進する。 ・キャリア教育推進委員会を設置しキャリア教育の具体的な取組の推進について検討する。

家庭・地域・企業との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、職場見学等を通して、さまざまな角度から地域にある教育力を柔軟に活用する。 ・広報活動や育友会(PTA)総会、保護者会など様々な機会を通してキャリア教育の具体的な内容を説明し、家庭との一層の連携を図る。

異校種間の連携
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校でのキャリア教育の実践を踏まえ、継続性・発展性のある活動の展開を図る。 ・広報活動等を通して高校での実践を小中学校に紹介し、連携の強化を図る。

第3章 推進校の取組（2） 県立徳山北高等学校

平成21年度 キャリア教育年間計画

学期	月	学校行事	特別活動	総合的な学習の時間	その他	
1	4				キャリアカウンセリング (3)	
	5	音楽鑑賞会 (全)		ビジネスマナー教室 (全)		先生と生徒の意見交換会 (全) ボランティア活動 (全) 面接指導①② (3) 地域行事参加 (全)
	6	キャリア教育講演会 (全) 運動会 (全)	進路適性検査 (2)			
	7	「ようこそ先輩」講話 (3) 進路ガイダンス (全)				
夏季休業	8					
2	9	文化祭 (全) 性に関する講演会 (全)			ボランティア活動 (全)	キャリアカウンセリング (3)
	10		SGE, SST (全)	インターンシップ事前指導 (1・2)		
	11	演劇鑑賞会 (全) 人権教育講演会 (全)	インターンシップ (1・2)	インターンシップ事前指導 (1・2) インターンシップ事後指導 (1・2)	先生と生徒の意見交換会 (全)	キャリアカウンセリング (1・2)
	12	企業・上級学校見学 (1・2)		福祉施設訪問 (1)	上級学校見学 (保護者)	
3	1					
	2		SGE, SST (1・2)		先生と生徒の意見交換会 (1・2)	
	3	職業人講話 (1・2) ふれあいの森ボランティア (1・2)				

※ 項目の後の () 内は関係学年



進路ガイダンス



インターンシップ